財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年 10月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻513号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
第61回全日本高校選手権大会
第23回全国小学生大会
第3回女子ユース世界選手権

10
OCT.2010・No.513

【表紙写真：インターハイ男子優勝の北陸高校・柴山選手　写真提供・スポーツイベント社】

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/



人生で最初に出会う競技スポーツ



―ハンドボールも選択肢の１つに―

（財）日本ハンドボール協会参事・小学生委員会委員長　**山本　繁**

日本の子供達が『人生で最初に出会う競技スポーツ』は、何でしょうか？

やっぱり野球？　今はサッカー？　幼児からのスイミング？　私が小学生の頃は、これに相撲が加わるでしょうか。いや、でも学校ならやっぱりドッジボール。体育では、３、４年生からサッカー、バスケットボール、ハンドベースボール、ソフトバレーボール…。テレビをつければ、野球、サッカー、バレーボール、ラグビー、水泳、相撲…。子供達が、「やりたい！」と思うスポーツは、これらでしょうか？

いやいや、**ぜひその中にハンドボールも加えましょう。**我々ハンドボールに関わる小学校教員やスポーツ少年団指導者がめざすべきは、『人生で最初に出会う競技スポーツ』の選択肢の中に、ハンドボールを加えること。そして、**「その中でも、ハンドボールが一番おもしろいよね！」**と言わせることです。実際、小学校低・中学年にハンドボール（的なボールゲーム）をさせれば、すぐに納得！　ほとんどの子供は喜びますし、すぐにゲームに馴染んで活躍し出します。本当に子供にぴったりのボールゲームなのです。また、運動発達の面からも、ハンドボールは「走・跳・投」の基本動作が備わったスポーツであり、自由度が大きく多様な動きが養われるので、ハンドボールで培った能力は、他のスポーツにも転化しやすいのです。ハンドボールは、**「子供達に自慢すべきスポーツ」**、**「自信を持ってお奨めするスポーツ」**なのです。当然、小学生のうちはいろいろなスポーツを経験する方が望ましいのですが、このようなハンドボールの魅力を全国の小学生に広め、他のスポーツ同様選択肢として肩を並べたいものです。これが、小学生委員会の普及の仕事でしょう。

一方、「全国小学生ハンドボール大会」は、今年で23回目となりました。各都道府県大会を勝ち抜いた代表チームが男女合わせて59チーム集まり、予選リーグ、決勝トーナメントで熱戦を繰り広げました。これまでにこの大会を経験し、その後、中学・高校で活躍する選手が数多くいます。近年の全国中学校大会やインターハイ等で勝ち上がっているチームには、必ずと言っていいほど、小学生からの経験者がいます。小学生で身に付けたステップワークやボールセンス、ゲームセンス、体力・運動能力が、大いに役立っているものと信じております。少年ハンドボール指導者の日々の指導に敬意を表します。

今年度、小学生委員会では、**「少年チームの運営活性化」**を基本方針として活動しております。全国には、日本協会登録チームが340チーム余り。1,100名ほどの指導者が小学生にハンドボールを教えています。また、半数以上のチームが、１年生から入会させ丁寧に面倒を見ているようです。この少子化の日本にあって、チーム数や部員数の現状維持が難しい中、ハンドボールでは現状維持かやや微増をキープしており、指導者の皆さんのご苦労の跡が感じられます。このように、日本のハンドボールの底辺（現場）は、全国各地でハンドボールを愛するボランティアの皆さんの努力の下で、『人生で最初に出会う競技スポーツ』にハンドボールを選んで、日々ハンドボールを楽しんでいます。我々小学生委員会は、このようなチームや指導者の方々の頑張りに応えられるように、チーム運営の手助けになるよう情報交換をしながら環境整備等に努めております。

また、７年前からは、指導委員会、NTSとも連携を図りU-12講習会を開催し、指導体系の一環システムにも関わってまいりました。ガイドブックも２種類作成し、全国の少年チームに配付してきました。その成果は、子供達のプレーの向上に表れてきています。

さらに、昨年からは、「日韓小学生親善交流事業」もスタートしました。昨年は韓国チームが来日し、全国大会を見学し、その参加チームや富山県の小中学生と練習試合や合同練習（親善交流）をしました。今年は、８月下旬に京都府（男子）と富山県（女子）が訪韓し、河南市で親善交流を行いました。（詳細は別な機会で）

このように、**小学生委員会では、普及と指導の両面において活性化と活動内容の充実を図っております。**今後も、各ブロック９名と協会担当者４名の小学生委員で、全国の現状を正確に把握し、成果と課題を明らかにし、普及と指導に当たってまいります。ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

高松宮記念杯

第61回 全日本高等学校選手権大会

平成22年度全国高等学校総合体育大会


写真提供：スポーツイベント社

最終順位

［男子］優　勝：北陸高校（福井県）
　　　準優勝：瓊浦高校（長崎県）
　　　３　位：県立岩国工業高校（山口県）
　　　　　　　県立不来方高校（岩手県）
［女子］優　勝：府立洛北高校（京都府）
　　　準優勝：四天王寺高校（大阪府）
　　　３　位：文化女子大学附属杉並高校（東京都）
　　　　　　　高岡向陵高校（富山県）

【男子】北陸高校が３年ぶり３回目の優勝
【女子】洛北高校が２年ぶり８回目の優勝

全国高校総合体育大会「美ら島沖縄総体 2010」ハンドボール競技の総括

沖縄県高体連ハンドボール専門部ハンドボール競技実行委員長　与那嶺 直樹

「青天届く君の風　みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと、８月１日から６日間、全国高校総合体育大会・高松宮記念杯第61回全日本高等学校ハンドボール選手権大会が、単一県開催最期の地、沖縄で開催されました。

沖縄でも全国的な荒天の影響か、大会期間前後で雨の多い天候となりましたが、南国特有の青空と独特の空気感を味わうことができたと思います。

日本協会より、本大会の総括ということで依頼があり、大会運営を通して私が感じたことを綴っていきたいと思います。

まず、今大会会場となった浦添市民体育館、八重瀬町東風平体育館、具志頭社会体育館で、松やにを使用した大会運営ができたことに、各市町関係者に御礼申し上げます。これは、ハンドボール王国都市宣言をした浦添市を中心に、高校のトッププレーヤーに、ボールを握り自由に扱うという、ハンドボールの醍醐味を十分に発揮させたいという願いから実現できました。選手からも、概ね好評でした。

また、各校の応援団として多くの保護者が沖縄を訪れていて、各会場とも試合と応援の熱気ですごい盛り上がりを見せていました。特に沖縄県代表の試合では、会場全体が県勢の応援になったかのようでした。応援団も試合が終われば、それぞれ思い思いに沖縄観光もでき、有意義に過ごすことができたと思います。

試合のほうに目を移してみると、春の選抜で上位に進出したチームがこの大会でも上位に位置してきました。男子では、北陸（福井）岩国工業（山口）不来方（岩手）、女子は洛北（京都）四天王寺（大阪）文大杉並（東京）が春に続き４強入りし、瓊浦（長崎）高岡向陵（富山）が春の悔しさをばねに躍進しました。特に、岩国工業対法政二（神奈川）、香川中央（香川）対小林秀峰（宮崎）、瓊浦対香川中央、不来方対興南（沖縄）等、１点を争う見ごたえある試合も多く、スリリングな展開に会場が湧きました。

女子は、点差がつく試合が多くなりましたが、高岡向陵が１、２回戦の接戦を制した勢いそのままに３位を獲得しました。特に、２回戦で春の準優勝校、華陵（山口）に逆転勝利したことで自信を持って戦いを進めていったように思います。

大会運営各所で、沖縄らしさを出してきた大会でしたが、表彰式では特に沖縄らしさを出せたと思います。それは、沖縄県ハンドボール協会長賞の授与で、沖縄特産のマンゴー、ドラゴンフルーツ、パイナップルをチームに贈呈したことです。協会長賞は、どういうものを贈呈してもいいということだったので、協会内で話し合いがなされ、トロフィー等よりも頑張った選手に還元できるものがいいだろうということで、特産品の贈呈となりました。選手、監督にとって思い出の品になったと思います。

最後に、これまで大会までの準備や助言をいただいた全国高体連ハンドボール専門部、浦添市実行委員会、八重瀬町実行委員会、沖縄県高体連のみなさんに感謝申し上げます。

また、大会運営にあたり各準備の取り組んでいただきました県内各小、中学校、高等学校、特別支援学校、大学の先生方、補助員として滞りなく大会運営を進めてくれた県内高校生、大学生の皆さんに、誌面を借りましてお礼申し上げます。

男子優勝チーム：北陸高等学校（福井県）

北陸高校男子ハンドボール部総監督　志々場 修二

まずは平成22年度全国高校総体におきまして、３年ぶり３回目の優勝をできましたことに対し、日頃よりご支援ご協力いただいております学校関係者の皆様、県体育協会、県高体連の皆様、ご父兄、OBの皆様に深くお礼申し上げます。有難うございました。

本大会は、３月の全国選抜大会初戦敗退という悔しい思いもあり、選手たちも気持ち新たに挑戦者という強い気持ちで挑んだ大会でありました。しかし初戦から強豪チームとの戦いとなり、また、ノーマークシュートなどミスが続き、なかなか本来の試合運びをすることができず厳しい戦いが続きました。しかし、準決勝からは見違えるように、アグレッシブなディフェンスからの速攻や、早いパス回しからのセットオフェンスなど、本来の持ち味を発揮することができました。また、１年生も入り不安材料もありましたが、３年生を含めそれぞれが日頃の練習の成果を十二分に発揮し、試合ごとに自信をつけていくことができたと思います。

決勝戦は、両チームの持ち味を生かしたスピードある展開となりましたが、最後まで粘り強く守り抜くことができ、優勝することができました。

最後になりましたが、今大会で運営にあたられた大会関係者の皆様、会場で応援してくださった皆様に心よりお礼申し上げます。本当に有難うございました。



女子優勝チーム：洛北高等学校（京都府）

洛北高校キャプテン　角南 果帆

この度、美ら島沖縄総体で優勝させていただくことができ、本当に嬉しく思います。

春の選抜大会で四天王寺に敗れ、また恩師である楠本繁生先生の転勤。インターハイまでの約４ケ月間、本当に苦しい道のりでした。なかなか現実を受け止めることができない私達。私達が苦しんでいた分、楠本みゆき先生はもっと苦しかったでしょう。

ですがそんな中、私達を応援して下さった多くの方々。家族、学校の先生、クラスの友達、地域の皆さん、代々の先輩方の支えが私達洛北高校の大きな力となりました。

「勝ちたい」この強い思いを一つに京都府予選、近畿大会と大会を重ねるごとにチームが一つになり、個人、チームの反省を元に成長していったチーム。そしてインターハイ。もう、「優勝」の２文字しか考えられませんでした。一試合一試合、反省点は多いですがその分、強くなっていることを感じました。

決勝戦では、試合終了のホイッスルが鳴った時、嬉しいという気持ちより今まで支えてきて下さった家族や多くの方々、そして共に戦ってきた仲間、楠本みゆき先生、繁生先生への感謝の気持ちでいっぱいでした。たくさん苦しんで泣いて悩んだ日々は、この瞬間のためにあったんだと思いました。



選抜大会での負け、監督が変わるといった大きな経験が私達を成長させてくれました。指導方法が全く違い、初めは戸惑うことも多々ありました。ですが、こういったことも全て私達の力となりました。今後も洛北スタイルで洛北らしいハンドボールをして、このインターハイでの優勝という経験を活かし、10月の国体では更にレベルアップした洛北を見せたいです。

一日一日を大切にして、全力で国体優勝という目標に向かって頑張っていきたいです。これまでご支援いただきました多くの方々に感謝いたします。次の国体では京都府選手団として出場させていただきますが、今後とも、ご支援、ご声援のほどよろしくお願いします。本当にありがとうございまし





3点共　写真提供：スポーツイベント社

戦　評

【男子】

▼準決勝

北陸　29（13－10、16－13）23　不来方

高さと速さの不来方と速い展開を得意とする北陸の対戦。不来方・大和田のカットインで先制。4分過ぎには岡本のサイド、森田のミドルシュートなど3連続得点で4対1とする。北陸も杉本のサイドからの2連続得点、大橋、村田のポストシュートなどで食い下がり、13分には同点、14分には逆転に成功する。その後、両チームGKによる好セーブもあり、一進一退の攻防が続く。前半終了間際、北陸・平子のミドル、大橋のポストシュートで3連続得点し、13対10の北陸リードで折り返す。

後半に入ると、北陸は堅い守りからの速攻、サイドからの展開するオフェンスが噛み合い、7分過ぎには18対11とし、さらに平子、杉山らのシュートで17分過ぎには22対14とリードを広げる。不来方も大和田のミドル、ポストシュート、森田のカットインで4連続得点をあげるが、反撃もここまで。前半に逆転し、その勢いを後半ではさらに加速させた北陸が2年連続決勝へ進出した。

瓊浦　26（12－7、14－17）24　岩国工業

前半開始早々、瓊浦はエース池田のミドルシュートで先制する。岩国工も角田のカットイン、エース久保のミドルシュートと続き、互角の立ち上がりを見せる。その後、瓊浦が流れを掴む。池田を中心にフローター陣が鋭い1対1からのミドルシュートやカットインで得点する。岩国工は久保へのマークが厳しく、思うように得点できず、前半を12対7と瓊浦のリードで折り返す。

後半、瓊浦が主導権を譲らず18分まで23対14とリードを広げる。ここから岩国工の怒涛の反撃が始まる。池田に対してマンツーマンをつけ瓊浦のリズムを乱すと、攻撃ではエース久保が奮起し次々と得点をあげ、23分には23対20と3点差まで詰め寄る。その後、瓊浦は中嶋が加点し食い下がり、岩国工を寄せ付けない。最後まで追い上げた岩国工だが、GK新々江の好セーブに阻まれ、26対24でゲームセット、瓊浦が決勝進出を決めた。

▼決勝

北陸　35（16－11、19－21）32　瓊浦

優勝経験のある両チームの決勝戦。前半、北陸が速攻から柴山がシュートを決め、先制する。瓊浦は萬屋のサイドシュートで得点し、10分で4対4と互角の立ち上がり。先に流れをつかんだのは北陸。5－1DFで瓊浦のスピードあるオフェンスに対して厳しくマークし、カットン、ミドルシュートを簡単に許さない。速攻や杉山、村田のサイドシュート、大橋のポストシュート、平子のミドルシュートなどで得点を重ね、16対11と北陸が5点リードで前半を折り返す。

後半は激しい点の取り合いとなる。北陸は2人の左腕、柴山、杉本が活躍し、速攻やカットインなどで次々と加点し、15分には29対21とこの試合最大となる8点のリードを奪う。対する瓊浦も藤永、池田、萬屋らが得点し、怒涛の反撃を見せるが、北陸GK佐藤が好セーブを連発、堅いDFで要所を守り、食い下がる瓊浦を振り切った。結局、35対32で北陸が3年ぶり3度目の優勝を飾った。

【女子】

▼準決勝

洛北　25（13－7、12－9）16　高岡向陵

笠原のロングシュートで先取点を得た洛北は、堅い守りからスピードのある攻撃で着々と得点を重ねる。対する向陵も横嶋のポストシュートなどで得点、粘り強く洛北を追う。しかし開始15分以降、洛北が笠原ののびやかなロングシュートやポストシュートのコンビプレーで得点し6点差をつけ前半を折り返す。

後半は波に乗った洛北が、向陵を突き放しにかかる。笠原に加え田邉のロングシュート、櫻井の速攻やサイドシュートがテンポよく決まり、じわじわとリードを広げる。向陵も佐々木のロングシュート、カットインなどで得点、反撃のチャンスを狙うが、洛北のディフェンスを切り崩せず、洛北が快勝した。

四天王寺　19（8－6、11－8）14　文大杉並

前半、四天王寺・堀川のカットインでスタートした準決勝。竹下の力強いポストプレーを中心に波に乗りたい四天王寺に、文大杉並は高い5－1ディフェンスとGK渡邉の好セーブで対抗し、均衡した試合展開のまま8対6で前半を折り返す。

後半、四天王寺が渡井のサイドシュートや前の速攻で2連取し徐々に主導権を握りはじめ6分に6点差になると文大杉並がタイムアウトを取る。流れを変えたい文大杉並は中村や足立のミドルシュートで得点するも、四天王寺の幅のあるディフェンスにリズムに乗れず、逆に速攻へとつなげられ、終始四天王寺のペースのまま試合が終了。

▼決勝

洛北　22（12－6、10－13）19　四天王寺

王者奪還を狙う洛北対2年連続優勝を狙う四天王寺の決勝戦は四天王寺のスローオフで開始した。

笠原のミドルシュートで先制した洛北が、太刀川のサイドシュートや角南のステップシュートなどで4連続得点し、徐々に主導権を握り始める。対する四天王寺もタイムアウトを取りリズムを取り戻そうとするが、7mTやミドルシュートを洛北のGK和田の好セーブに阻まれ、リズムに乗れないまま6点差で前半を折り返す。

後半早々、洛北が岸本のミドルシュートや太刀川の速攻で8点差にするが、四天王寺も竹下のポストシュートなどを皮切りに5連取と1点差まで詰め寄り手に汗握る展開に突入。しかし、最後に洛北が笠原のカットインやミドルシュートで加点し、追い上げる四天王寺を振り切り王者奪還を果たした。

平成22年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第61回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

優勝・北陸高校（福井県）3年ぶり3度目

県立香川中央高校（香　川）
県立柏崎工業高校（新　潟）
県立湯沢高校（秋　田）
駿台甲府高校（山　梨）
県立小林秀峰高校（宮　崎）
神戸国際大学附属高校（兵　庫）
県立境高校（鳥　取）
府立洛北高校（京　都）
県立四日市工業高校（三　重）
聖和学園高校（宮　城）
県立富岡高校（群　馬）
瓊浦高校（長　崎）
市川高校（千　葉）
県立向原高校（広　島）
県立上田染谷丘高校（長　野）
県立北村山高校（山　形）
函館工業高校（北海道）
県立那覇西高校（開催地）
徳島市立高校（徳　島）
近江兄弟社高校（滋　賀）
県立大分雄城台高校（大　分）
県立御殿場高校（静　岡）
法政大学第二高校（神奈川）
県立岩国工業高校（山　口）

県立不来方高校（岩　手）
県立岐阜商業高校（岐　阜）
市立一条高校（奈　良）
熊本国府高校（熊　本）
國學院大學栃木高校（栃　木）
県立氷見高校（富　山）
県立総社高校（岡　山）
佐賀清和高校（佐　賀）
浦和学院高校（埼　玉）
金沢市立工業高校（石　川）
県立松山東高校（愛　媛）
興南高校（沖　縄）
都立東大和高校（東　京）
大阪体育大学浪商高校（大　阪）
県立国分高校（鹿児島）
土佐高校（高　知）
県立野辺地高校（青　森）
県立松江南高校（島　根）
北陸高校（福　井）
県立藤代紫水高校（茨　城）
県立安積高校（福　島）
県立紀北農芸高校（和歌山）
県立新宮高校（福　岡）
名古屋市立桜台高校（愛　知）

Bracket results

- 湯沢 29 – 20 柏崎工業
- 香川中央 42 – 22 湯沢
- 小林秀峰 39 – 18 駿台甲府
- 小林秀峰 32 – 23 神戸国際大学附属
- 香川中央 27 – 26 小林秀峰
- 洛北 36 – 22 四日市工業
- 洛北 38 – 22 境
- 富岡 32 – 22 聖和学園
- 瓊浦 36 – 30 富岡
- 瓊浦 30 – 27 洛北
- 瓊浦 30 – 29 香川中央
- 上田染谷丘 37 – 33 向原
- 市川 50 – 14 上田染谷丘
- 北村山 33 – 29 函館工業
- 那覇西 35 – 8 北村山
- 市川 29 – 22 那覇西
- 大分雄城台 33 – 18 近江兄弟社
- 大分雄城台 44 – 22 徳島市立
- 法政大学第二 34 – 20 御殿場
- 岩国工業 25 – 24 法政大学第二
- 岩国工業 28 – 22 大分雄城台
- 岩国工業 32 – 21 市川
- 瓊浦 26 – 24 岩国工業
- 岐阜商業 29 – 20 一条
- 不来方 30 – 18 岐阜商業
- 熊本国府 30 – 21 國學院大學栃木
- 熊本国府 35 – 31 氷見
- 不来方 27 – 24 熊本国府
- 浦和学院 27 – 24 佐賀清和
- 浦和学院 29 – 23 総社
- 金沢市立工業 31 – 30 松山東
- 興南 36 – 24 金沢市立工業
- 興南 30 – 24 浦和学院
- 不来方 34 – 31 興南
- 浪商 33 – 17 国分
- 浪商 38 – 22 東大和
- 土佐 32 – 25 野辺地
- 土佐 24 – 19 松江南
- 浪商 42 – 30 土佐
- 藤代紫水 36 – 13 安積
- 北陸 33 – 29 藤代紫水
- 新宮 33 – 26 紀北農芸
- 桜台 24 – 19 新宮
- 北陸 30 – 27 桜台
- 北陸 28 – 26 浪商
- 北陸 29 – 23 不来方
- 決勝：北陸 35 – 32 瓊浦

平成22年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第61回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部

優勝・府立洛北高校（京都府）2年ぶり8度目

出場校

左ブロック	右ブロック
四天王寺高校（大阪）	府立洛北高校（京都）
県立湯沢高校（秋田）	県立国分高校（鹿児島）
松江市立女子高校（島根）	県立飛騨高山高校（岐阜）
県立栃木商業高校（栃木）	県立青森中央高校（青森）
県立巻高校（新潟）	県立水海道第二高校（茨城）
県立松橋高校（熊本）	県立早良高校（福岡）
札幌丘珠高校（北海道）	県立吉井高校（群馬）
県立大分鶴崎高校（大分）	県立徳島城北高校（徳島）
県立高知東高校（高知）	県立神埼清明高校（佐賀）
埼玉栄高校（埼玉）	県立彦根翔陽高校（滋賀）
市立清水商業高校（静岡）	明誠学院高校（岡山）
県立上田高校（長野）	小松市立高校（石川）
夙川学院高校（兵庫）	名古屋経済大学市邨高校（愛知）
県立高松商業高校（香川）	県立賀茂高校（広島）
県立四日市四郷高校（三重）	横浜創英高校（神奈川）
県立佐世保商業高校（長崎）	県立和歌山商業高校（和歌山）
山本学園高校（山形）	県立那覇西高校（沖縄）
昭和学院高校（千葉）	聖和学園高校（宮城）
県立生駒高校（奈良）	県立小林秀峰高校（宮崎）
県立陽明高校（開催地）	県立東温高校（愛媛）
県立境高校（鳥取）	駿台甲府高校（山梨）
県立不来方高校（岩手）	高岡向陵高校（富山）
県立福井商業高校（福井）	県立石川高校（福島）
文化女子大学附属杉並高校（東京）	県立華陵高校（山口）

1回戦

- 県立湯沢 29－14 松江市立女子
- 県立栃木商業 37－11 県立巻
- 県立大分鶴崎 44－3 県立高知東
- 埼玉栄 38－9 市立清水商業
- 県立高松商業 21－16 県立四日市四郷
- 県立佐世保商業 29－13 山本学園
- 県立陽明 26－8 県立境
- 県立福井商業 29－25 県立不来方
- 県立国分 24－16 県立飛騨高山
- 県立水海道第二 30－23 県立青森中央
- 県立神埼清明 30－24 県立徳島城北
- 明誠学院 25－17 県立彦根翔陽
- 横浜創英 25－15 県立賀茂
- 県立那覇西 32－17 県立和歌山商業
- 駿台甲府 24－12 県立東温
- 高岡向陵 26－23 県立石川

2回戦

- 四天王寺 34－19 県立湯沢
- 県立松橋 26－15 県立栃木商業
- 県立大分鶴崎 31－15 札幌丘珠
- 埼玉栄 26－15 県立上田
- 夙川学院 17－15 県立高松商業
- 昭和学院 19－8 県立佐世保商業
- 県立陽明 23－16 県立生駒
- 文化女子大学附属杉並 26－18 県立福井商業
- 府立洛北 34－12 県立国分
- 県立水海道第二 19－17 県立早良
- 県立神埼清明 38－22 県立吉井
- 小松市立 15－10 明誠学院
- 名古屋経済大学市邨 28－18 横浜創英
- 聖和学園 24－18 県立那覇西
- 駿台甲府 29－26 県立小林秀峰
- 高岡向陵 26－23 県立華陵

3回戦

- 四天王寺 33－19 県立松橋
- 埼玉栄 25－22 県立大分鶴崎
- 昭和学院 25－17 夙川学院
- 文化女子大学附属杉並 28－14 県立陽明
- 府立洛北 49－21 県立水海道第二
- 小松市立 30－21 県立神埼清明
- 名古屋経済大学市邨 20－19 聖和学園
- 高岡向陵 28－22 駿台甲府

準々決勝

- 四天王寺 24－17 埼玉栄
- 文化女子大学附属杉並 23－16 昭和学院
- 府立洛北 34－20 小松市立
- 高岡向陵 28－20 名古屋経済大学市邨

準決勝

- 四天王寺 19－14 文化女子大学附属杉並
- 府立洛北 24－16 高岡向陵

決勝

- 府立洛北 22－19 四天王寺



開会式会場の浦添市てだこホール



大会委員長 塩谷和雄
高体連ハンドボール専門部部長



大会副委員長 河先　修
高体連ハンドボール専門部委員長



(財) 日本ハンドボール協会
川上憲太 専務理事



歓迎のことば
儀間光男 浦添市長



歓迎のことば
比屋根方次 八重瀬町長



歓迎のことば
沖縄県立浦添商業高等学校生徒会長
辺土名夏姫さん



選手宣誓
男子：玉城慶也さん（興南高校）
女子：大城夏海さん（那覇西高校）





歓迎アトラクション
琉球太鼓、創作舞踊（浦添市在中の小中高生による競演）

大会のサポート役



［総合受付］普天間高校ハンドボール部　宮里恵利香さん（前列右端）他のみなさん



［駐車場係］開邦高校ハンドボール部のみなさん



［開会式：司会］首里高校 放送部
長嶺志都さん・眞榮城茅奈実さん・屋比久かれんさん

大会４会場



浦添市民体育館



浦添市多目的屋内運動場



八重瀬町東風平運動公園体育館



八重瀬町具志頭社会体育館

第23回 全国小学生ハンドボール大会

異常気象の酷暑の中、全国の少年少女にハンドボール競技の歓びを経験する機会を広く提供し、競技を通じて少年少女相互の交流と友情を深めるとともに、体力の増強と健全で豊かな心の育成を図ることをねらいとした全国小学生大会が、今年も、平成22年7月30日（金）～8月1日（日）京都・京田辺で開催されました。男子は、スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）が3度目、女子は、東海ハンドボールスクール（愛知県）が初優勝で大会は終了しました。

最終順位

■男子　優　勝：スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）
　　　　準優勝：下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）
　　　　３　位：港川小学校ハンドボール部（沖縄県）
　　　　４　位：窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）

■女子　優　勝：東海ハンドボールスクール（愛知県）
　　　　準優勝：仏生寺スポーツ少年団（富山県）
　　　　３　位：浦城ハンドボール部（沖縄県）
　　　　４　位：東久留米ハンドボールクラブ（東京都）

写真提供：スポーツイベント社













男子優勝 スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）

全国の強豪チームと戦うために

スポーツ少年団守谷クラブ監督　中山　悟



ここ数年、なかなか予選を突破することができず、どうしたら強豪チームと対等に戦えることができるのかを考えていました。そこで、原点に返り体力の強化（ロードワーク）、基礎基本（フットワーク）の強化を年間を通じ徹底して取り組んできました。自分たちのハンドボールがどこまで通用するか、まず予選突破を目指すことを今回目標としました。

日頃から、全国レベルのプレーを目指し、「試合の結果は、練習の成果だ！」（守谷クラブ心得より）を合い言葉に、全国の強豪チームを常に目標にして練習してきました。

初戦の総社（岡山県）との試合は、大苦戦の末の勝利、試合には勝ったが、内容では完敗でした。夜のミーティングで、子どもたちは、勝ちたい気持ちが優先して、思うようなプレーができず、試合のできは最悪だったと自ら反省し、次の試合から一つでも良いプレーができるようにと、気持ちを切り替え、試合に臨みました。以後、子どもたちは見違えるような動きで、強豪チームと対戦していきました。決勝戦では、劇的な勝利で全国大会三度目の優勝をすることができました。又、試合を重ねるごとに他のチームの方々が応援に参加して下さり、大応援団となって声援をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

普段から、ハンドボールを通して社会のルール、学校のルールを学ぶ、ハンドボールができる環境や保護者のサポート体制、守谷クラブに関わっている多くの方々に常に感謝する気持ちをもつことを大切にしています。

守谷クラブの子どもたちを指導するにあたっては、常に子どもが主役で、監督・コーチはサポートする立場と考えています。子どもたちがいろいろな場面で自分で考え、状況判断をする手助けをしていく。これからもこの気持ちを忘れずに、全国の強豪チームと対戦するためにサポートしていきたいと思います。ありがとうございました。





女子優勝 東海ハンドボールスクール（愛知県）

初優勝を振り返って

東海ハンドボールスクール女子監督　本田 哲也

東海ハンドボールスクールが開校して12年目でようやく全国優勝を掴む事ができました。それまでには、去年全国大会でベスト8で終わり悔しい思いをした事が良い経験になったと思います。私自身、去年全国大会に付いて行く事が出来ず、大変悔しい思いをしたことを覚えています。

今年のチームには、去年からエースポジション、センターでプレイしていた2人が残っていた事も強みだったと思います。しかしその2人については、必ずマンツーマンディフェンスをしてくると思い、そのための練習もやって来ました。ただ他のポジションとの差があり、その差を埋めることが一つの課題だと思い練習時間の無いなか、子どもたちが頑張ってついてきた成果だと思います。

全国大会では1回戦目から何度も試合をしている福井県の木田ブルーロケッツ2000で、気の抜けない試合でしたが、





選手たちが頑張ったおかげで勝利する事ができました。2回戦からも気の抜ける試合が一つもなく、スタッフでビデオを見てミーティングで子どもたちに伝える日々でした。

決勝戦では予想通り富山県代表の仏生寺スポーツ少年団でした。仏生寺スポーツ少年団とも何度も試合をしておりますが、OF・DF共に欠点がなく必ず競った試合で、ミスしたチームが負けると思ってスタッフ・選手達共に試合に臨みました。

試合ではやはり点を取ったら取られる試合でしたが、途中で両サイドの得点があり、そこから流れが変わってきたと思います。特に右サイドの選手はハンドボールを始めて2～3カ月しか経っておらず不安がありましたが、堂々と力を出してくれたと思います。

また選手が私の知る力以上の力を出し、それが結果として出たのだと思います。今大会では選手同士の繋がり・チームの大切さなどを知る良い経験が出来たと思います。



また全国大会出場にあったてバックアップしてくださった皆様、大会運営に関わった皆様に感謝し、今後とも今回の成績に驕ることなくさらに精進し、スタッフ・選手共に頑張って行きたいと思います。

本当にありがとうございました。

第3回 女子ユース世界選手権

3rd Women's Youth Handball World Championship



【最終順位】
優勝：スウェーデン
2位：ノルウェー
3位：オランダ
4位：フランス
5位：スペイン
6位：デンマーク
7位：ロシア
8位：ドミニカ
9位：韓国
10位：アンゴラ
11位：ハンガリー
12位：ウルグアイ
13位：ブラジル
14位：ドイツ
15位：日本
16位：カザフスタン
17位：アルゼンチン
18位：コンゴ
19位：タイ

第3回女子ユース世界選手権報告

団長　西窪 勝広

ドミニカ共和国にて大会が開催され19カ国が参加し、日本は15位で終了した。

全チーム同じホテルという規模の運営であった。

※コートジボアールが不参加、試合日程が変更

テクニカルミーティング（全チームに同時開催）（亀井HC、佐久間D）

※西窪、オブザーバー参加

① IHF: Representatives　Migui Roca Mas(ESP)

② Offciais: Manfred Prause(GER)　Mario Garcia La Torre (MEX)

③ Technical Delegats: (PUR)(ARG)(ESP)(HUN)(ALG)(SUI)(NOR)(MEX)(BRA)(CAN)(SLO) (FRA)(SRB)(TUR)

④ Referees: (CMR)(CRO)(ESP)(IRI)(NOR)(SRB)(SUI)(SWE)(TUN)(TUR)(URU)(USA)

大会運営はずさんであった。

各国団長名でドミニカハンドボール協会会長に嘆願書を提出しIHF役員、ドミニカ協会会長、役員を交え緊急会議を8月2日に実施。

①空港からホテルまでのバスの数が不足（各国1台のバス提供なし）。

②選手係がいない為、試合日の移動、練習の予定を立てられない。

③ホテルにIHFからの情報案内、サポートの提供が皆無、チームからの質問に対する回答や手伝いをする係がいない。

④ 20:00時試合開始後の夕食なし。

等々、改善して欲しいと要望、ドミニカ会長は改善の約束したがなかなか改善されず、再度IHFに要求し徐々にではあるが改善されてきた。ムスタファ会長が全チーム宿泊のホテルに来て再度話し合い、IHFが主導権をもちドミニカ協会を指導していくことで改善された。

レフェリー等は全試合を通じ何ら問題はなかったが、若いレフェリーが多く、2組の女性レフェリーがノミネートされていた。

会場は電源等のトラブルが多く得点、時間の掲示なしで試合が行われたケースが多々あった。2会場とも冷房施設もなく汗の関係で試合を中断することが多く、選手には厳しい環境であった。

試合の結果はスタッフの報告を参照してほしい。

強化本部長に就任し「アジア№1に返り咲く」「世界で戦う体力強化」を重点強化方針とし、日本代表だけでは大変厳しい底辺からの強化をと問題提起してきた。

予選リーグに関してウルグアイは危なげない戦いであった。残り2試合（ドミニカ・ノルウェー）の前半の戦いは問題ないが、後半の戦いに体力的問題、基本的なミスで力尽きる内容であった。ウルグアイ、ドミニカ、日本、と1勝2敗で並び得失点の4位の予選通過できなかった。

選手だけではなく、指導者も世界で戦う為の育成が、今後強化部として再構築することが重要であると再認識。

プレジデントカップ（下位順位決定戦）に臨んだ。対ドイツ戦は予選リーグ同様に力負けする局面が前半は多かったが、後半は攻守とも闘争心あふれるプレーで、残り5分で1



点リードしたが、その時にチーム内にアクシデントが起き、流れを崩し、３点差で敗退した。いかなる環境に直面しても戸惑う事無く戦える精神力とリザーブ役の教育も強化していく必要も痛感した内容であった。

15、16位決定戦のカザフスタンは、今後アジア地区を勝ち抜く為には絶対に負けてはいけない国であった。なかなか厳しい内容ではあったが、勝利したことは今後アジア地区での大会で必ずや日本代表に結びつく戦いになったことは間違いない。

15位という成績で終わったが、各国ともユース、ジュニア層からの徹底した強化策に重点を置いていることで、代表チームに反映していることが間違いないことを確信した。日本も現在取り組んでいるNTS、アカデミー等をフル活用し全国一丸となって選手育成に努めていかなければいけない事を私自身も強く感じる次第である。

また、このユース世界大会を日本に誘致し、世界のユースのレベルの高さを皆様に直視いただき、ハンドボールに携わっておられる皆様と共通認識を持って強化に努めることが、今後の日本代表に結びつくと痛感した。予選リーグで対戦したノルウェーは決勝まで進んだ国、そのノルウェーと戦った日本の選手は果敢に戦い敗れはしたが内容は評価でできるものであった。しかし、如何せん各国との差が経験不足であることは否めない事実である。この課題も今後の強化課題の重点項目としてとらえていきたい。

「鉄は熱い内に打て」という言葉があるが、今回の選手達が今後の日本を背負う立場になる。早急に強化合宿を実施し、今回の課題解決と指導者の意識改革に取り組んでいきたい。

亀井HCも世界選手権大会は初の采配であったが、選手個々の能力を遺憾なく引き出し戦ったことは評価に値する。同様にコーチ、ドクター、トレーナーと役割が明確であり、選手が戦える環境を整えたことも今後の強化に繋がると感じている。

まだまだ課題は山積しているが、日本が忘れかけている原点を私自身も再確認できた大会でもあった。

今大会は本当に色々な方々のお力で乗り切ることが出来ました。役員、選手派遣にご協力いただいた関係チームに心より感謝いたしております。

今回の教訓を今後の強化に結び付けていきますことをお約束し、御礼と報告といたします。

参加コーチ・選手のコメント

U－18ヘッドコーチ　亀井好弘

８月２日～12日、U－18女子ユース世界選手権に各地の予選を勝ち抜いた20カ国（コートジボアールが急遽不参加になり実質19チーム）が出場し、ドミニカ共和国で開催されました。日本は昨年のアジア予選で２位となりその出場権を得て、５月の選考会も含め計３回の強化合宿を行い、大会に出場しました。しかし、残念ながら日本の皆様の期待に応えることができず15位に終わりました。

冷静に、そして客観的に判断して、大会当時の力としては妥当な順位で終わったと感じるとともに、もう少し違った準備をしておけば､結果も違ったかもしれないという悔しさも、心に残った大会となりました。ここで準備期間から大会までを振り返り、感じたこと、または大会中に通訳を通して準優勝したノルウェーのヘッドコーチと対談させていただき、思ったことなどを述べさせていただきます。

準備段階のチームの基本方針は、大まかには２種類の基本ディフェンスシステムを持ち、先読みしたフットワークのよい守りから、ボールカットや相手のミスを誘い、縦の速攻で得点する速攻型チームを目指すとともに、遅攻においては、数種類のきっかけからコート20m幅をワイドに使い、縦と横の２対２、３対３を意識させ、ポスト、サイドでシュートチャンスをつくることを意識させました。

また、日本代表としての考え方や思考についてもミーティングという形で時間を割いて説き、チームとしての意思統一を求めました。しかし、その高い完成度を求めるには時間が足りなかったことや、私自身の指導力不足もあり、不安要素を残したまま大会を迎えることになりました。選手にとっても昨年のアジア予選チームスタッフが変わったことで、今まで求められてきたことと違うという思いもあり、非常に戸惑いが見られたように思います。

国内において、個の育成についてはNTSなどを通じて共通理解が得られているように思われますが、組織としての戦術面や考え方については、国内統一することが難しく、選抜チームをつくるとき苦労する点でもあります。

ノルウェーでは、ほとんどどのチームも同じ戦術であるため、その点で苦労することがないうえに、大会までの準備期間も日本より長く（今回も70日の強化合宿を実施)、しっ



写真提供：スポーツイベント社

かりしたチームづくりを行い国際大会に出場しているということでした。

大会を通じて日本が足りないと感じたことは、上から打つジャンプシュートだけではなく、ステップ、ランニングなどでディフェンスを利用したブラインドシュートを瞬時に放つシュートテクニックと、サイド及びポストでのシュートチャンスをいかにつくるかということです。この点については、十分な指導をしていなかったと猛省しているところです。

今回の大会の上位国は、きわめて基本に忠実であり、リスクの少ないオーソドックスなハンドボールを展開している国が多かったように感じました。また、日本は諸外国を参考にしながら、日本人という人種の特徴をとらえ、他国にないものを作り上げていく必要があると考えます。

最後になりましたが、遠隔地のドミニカ共和国開催ということで、様々なご配慮いただいた日本ハンドボール協会の皆様、強化合宿実施の際には、その準備や宿泊などでお世話になったANTCスタッフの方々、練習試合を快く引き受けて下さいました監督及びチーム選手の皆様、そして選手を派遣していただいた所属チームの監督など、本当に多くの方々のご協力に心より感謝するとともにお礼申し上げます。今後の日本ハンドボール協会の発展を祈念して、今回の報告とさせていただきます。

U－18主将　大谷佳奈美

私たちは、8月2日～12日にドミニカ共和国で行われた第3回女子ユース世界選手権に出場しました。アメリカ・アトランタ経由で現地入りしたので動けなかった日が丸2日あった上、着いた次の日に第1試合ということだったので、体が思うように動くかということがとても心配でした。

予選リーグは、日本、ウルグアイ、ノルウェー、ドミニカのB組で、初戦はウルグアイと試合をしました。ただでさえ体のコンディションがままならないのに会場へ向うバスも遅れて、さらに不安になりましたが、全員出場し速攻を中心としたゲームができ、34対27でまず1勝を収めることができました。2戦目のノルウェー戦では粘り強いDFができ、よいプレーがたくさんあったものの、相手の高さ・パワー・スピードに圧倒されミスも増え、28対34で負けてしまいました。3戦目は開催地のドミニカ共和国でした。この時点でウルグアイがドミニカに勝っていたので、日本がドミニカ

に勝てば予選リーグ２位となり、決勝リーグに行けるということだったので、私たちは気合十分で試合に臨みました。しかし、自分たちのミスも多く、開催地のすごい応援や相手のフィジカルに圧倒され、最後まで諦めずにくらいついたものの 22 対 38 の大差で負けてしまいました。

予選リーグが終わり、B組の結果は全勝のノルウェーが１位で、１勝２敗で３チームが並び得失点差の結果、２位ドミニカ、３位ウルグアイ、日本は４位となってしまいました。決勝リーグに行くことを目標にしていたため４位という結果はとても悔しかったけれど、しっかり切り替えて順位決定戦でまずドイツと対戦しました。最初からずっとリードされていて点差がかなり開いた時もありましたが、必死にくらいつき同点になり、そしてその後逆転し１点リードしました。しかし、その後５点連取され、私も捻挫をしてしまいコートに立てなくなり、最後まで全力で踏ん張ったものの、29 対 32 で負けてしまいました。負けはしたものの、ラストゲームにつながるいい試合ができたと思います。

そして最後に、15 位をかけてアジア予選で一度戦ったことのあるカザフスタンと試合をしました。前半はノーマークシュートを外したりパスキャッチミスをしたりなどイージーミスが続き苦しい試合展開でしたが、後半で相手を連続退場させ速攻などで差を広げ、最後までチーム一丸となって戦い、29 対 25 で勝利を収めました。日本は参加チーム 19 カ国中 15 位という結果となりました。

今大会で５カ国の外国チームと試合をして、自分の肌で世界のレベルの高さとすごさを感じることができました。なかなか勝つことができず、試合も苦しいゲームが多かったですが、楽しむこともできましたし、よい経験となりました。外国での試合ということで、文化の違いや食事の面でいろいろ大変だったこともありましたが、無事大会を終えることができてよかったです。この経験や試合で感じたことをこれからも忘れずに頑張っていきたいと思います。

戦　評

▼予選ラウンドB組

日本　34（12 － 13、22 － 14）27　ウルグアイ

日本チームのスローオフでゲーム開始。ミスから連続失点で０対２となってしまったが、古閑の速攻で１対２とし、その後両チームミスが続きながら 12 対 13 と前半を終える。

後半３分でやはり古閑の速攻で 15 対 14 と逆転するが、相手退場でミスから再び逆転される。その後、林の速攻で 17 対 16 と逆転し、３連取で 19 対 16。林・塩野のコンビで 20 対 17 から４点連取するが（22 対 17）、ミスが多発し 22 対 22 の同点に追い上げられてしまった。そこからまた古閑のサイドシュートで 23 対 22 とし、７点連取（29 対 22）となる。GK 名渕の後半の好守もあり、全員出場で速攻を中心にゲームを制した。

［得点］古閑９点、大谷・塩野５点、橋本４点、渡邉・小舘・一木・朝倉・林２点、加納１点

日本　28（8 － 12、20 － 22）34　ノルウェー

日本はディフェンスからのスタート。開始早々３連続失点を許すが、７分でディフェンスシステムを６－０から３－２－１に変えて小舘から大谷へのポストシュートで１対３とする。日本の積極的な攻撃に８分ノルウェーに退場者がでて、その後も警告退場を取るが、なかなか得点に結びつかず 22 分 20 秒で４対 11 と点差が開き日本はタイムアウトを要求。そこから、流れが変わり前半を８対 12 で折り返す。

後半は林のインターセプトからの速攻で３点差に詰め寄る。開始６分まで３～５点差の攻防が続いたが、その後体格を活かしたシュートを決められ一時は７点差となった。しかし、途中出場の朝倉の速攻、林のディスタンスシュート、橋本のポストなどで４点差まで追い上げる。しかし、地力に勝るノルウェーが34対28で勝利する。この試合では、林、一木.橋本の活躍と積極的なけん制を伴った粘り強い３－２－１デ

ィフェンスが光った試合であった。得点チャンスでのシュートミスが悔やまれる。
［得点］林８点、一木７点、橋本５点、小舘・大谷２点、朝倉・黒木・古関・加納１点

日本　22（12 － 17、10 － 21）38　ドミニカ

日本のオフェンスで試合開始。その攻撃で７mT をとり、一木が決めて幸先良いスタートをきったが、すぐに体格で勝るドミニカのポストプレーで同点とされる。日本は、高い３－２－１ディフェンスでドミニカの体格を活かした攻撃を高い位置で防ごうとするがパスを繋がれ、オフェンスの間が広くなったところで１対１を抜かれたり、ポストへのパスをだされて失点を重ねた。日本はスピーディな攻撃展開で速攻、セットオフェンスでチャンスをつくるがミスにより得点チャンスを逃す場面が目立ち前半を 12 対 17 で折り返した。

後半のスタートで途中出場の川畑が５点目の速攻でのシュートを決め波に乗ったが４連続失点で 13 対 22 と差をつけられてしまった。日本のディフェンスから速攻の流れが良くなって後半 11 分には３連続得点をしたが、その後９連続失点を許し 17 対 36 となってしまった。しかし、選手は諦めずに 24 分から古関、林、一木、川畑、朝倉と５連続得点をしたが、22 対 38 でゲーム終了となる。
［得点］川畑６点、古関４点、一木・橋本３点、林２点、渡邉・小舘・朝倉・中田１点、

▼ 13 － 16 位順位決定１回戦

日本　29（12 － 17、17 － 15）32　ドイツ

開始早々０対３とリードされるが、６－０ディフェンスシステムからのクロスアタックでドイツオフェンスのリズムを崩し、速攻に持ち込む展開で 16 分まで５対９と４点差。その後、６対 12 と６点のリードを許すが、22 分 39 秒、渡辺から大谷への速攻のパスが決まり再び９対 13 と４点差まで追い上げる。ドイツベンチが慌ててタイムアウトを請求した。その後、両チームの激しい攻防が続き 12 対 17 で前半終了。

後半も日本の積極的な攻防は衰えなかったが、ドイツも要所でロングやカットインを決めるので追いつく事がなかなかできなかった。しかし、一木、大谷らの力強いプレーが流れを変えた。17 分 43 秒には川畑の速攻で同点とし、18 分 51 秒には大谷が７mT をとり、一木が決め 25 対 24 とこの試合初めてのリードとなる。勝利の行方がわからなくなったと思えたが、その後ドイツに５連続得点を許し、25 対 30 となり、キャプテン大谷も右足首を捻挫し、コートに立てなくなってしまった。日本は最後までドイツに対してあきらめずに攻撃したが、最終スコアは 29 対 32 であった。
［得点］一木９点、大谷７点、古関５点、川畑３点、渡邉・林２点、小舘１点

▼ 15 － 16 位決定戦

日本　29（14 － 14、15 － 11）25　カザフスタン

カザフスタンの OF はセンタースリー。試合開始から両チームシュートまでいかないミスが目立ち、前半は１点を争うシーソーゲームとなった。日本は、速攻とカザフスタンの間の広い５－１DF を主にカットインで得点を挙げる。カザフスタンは長身のポストのブロックからカットインを利用した攻撃にミドルシュートを要所で打つ展開。途中センタースリーからダブルポストとなり、巧みなコンビネーションをみせるが、日本の DF もかなり粘った。

後半も 11 分までは１点を争う展開であったが、カザフスタンの足が止まったところを日本がうまく攻め、２人の退場者を出した時に古関の速攻などで４点差とリードを広げることに成功。そこから、日本は計４人の退場者を出すが、バランスの良い攻撃で 25 分 40 秒には７点差までリードした。最後までチーム一丸となって戦うことができた。フル出場の一木がチームを良く引っ張った。
［得点］一木８点、黒木６点、小舘４点、橋本・古関３点、渡邉２点、林・塩野・朝倉１点

第4回 男子ユース アジア選手権

4th Asian Men's Youth Handball Championship

大会期間：2010年7月3日（土）－7月16日（金）
開催都市：アラブ首長国連邦(UAE) アブダビ
競技方式：予選リーグの後各組上位2チームは準決勝・決勝、その他は順位決定戦。2011世界選手権アジア出場枠は上位2チーム

【最終順位】
1位　カタール
2位　韓国
3位　バーレーン
4位　サウジアラビア
5位　イラン
6位　UAE
7位　日本
8位　チャイニーズタイペイ
9位　イラク
10位　カザフスタン
11位　レバノン

第4回男子ユースアジア選手権大会報告

ユース日本代表監督　滝川一徳

大会に向けての準備

「体験に優るものはない」

従来のスケジュールであれば2年に1回この大会が世界選手権予選として実施され、そこに2年間で多くても約5～6回（計25日）の合宿を実施し大会に臨んでいました。この年代で公式国際試合を初めて体験し、必ずと言ってよい程選手の口から出る反省は「フィジカルの差」、「大事な場面でのシュートミス」等、決まり文句です。もちろん我々スタッフもその反省を次に活かすべくトレーニングを実施し、大会に臨むわけですが、やはり映像や説明だけでは実際は伝わりません。その点、今回のチームは昨年のユースオリンピック予選を経験し2位、全日本総合にも出場、さらには主将元木がフル代表で鍛えられている等、多くを「体験」している選手が核となっているため、選手の意識も高く、また期待していたユースオリンピックに韓国男子がエントリーしたため念願の出場がならず、何としても世界選手権に出場したいという新たなモチベーションのもと、5月に1回、大会直前に1回とキャンプ期間は短かったものの、短期集中の満足いくトレーニングを積み、大会入りできました。

「体格で勝てないなら体力で勝つ」

前途に述べました決まり文句の反省を選手達の口から言わせたくなく、私はこの2年間、ジュニア・ユースの代表に関わらせて頂いて以来10年の中で、一番厳しい体力トレーニングを課したつもりです。さらにボールを使う練習の前にその厳しい体力トレーニングをさせることで、苦しい状態でも的確な判断ができ、ミスが少ない選手を育成したいという信念を持ってやってきました。1年前の4月にこのチームを召集した時には体力トレーニングすらついてこられなかった選手も、今では体力トレーニング後の練習でも的確な判断もできるようになりました。体格で勝てなくても体力で勝てると昨年のユースオリンピック予選で中東勢に全勝して得た自信、そして何としても世界選手権に出たいという高いモチベーションがこのチームの大きな軸となっていました。

大会での成果と課題

「中東の……」

男子ハンドボール界では過去25年間、ジュニア・ユースで世界選手権大会にアジアを突破しての出場がありません。そのため私は今回「打倒・韓国」の前に「中東勢に全勝する」ことを大目標に強化しました。その目標が達成されれば世界に行ける、何としてもこの世代の選手に世界を経験させてあげたい、その体験が数年後日本代表に活かされる、こう考えていました。昨年のユースオリンピック予選で勝った相手にもう一度勝ち、そして昨年戦っていないイランをマークす

ることが大会での戦略と位置づけていました。ところが予選を戦う上で最も重要視しなければならない初戦のカタール戦で予期せぬ出来事がありました。大会の組み合わせが決定した時点で私は最も大切な初戦が昨年の予選で大勝していたカタールでしたが、全く油断はしていませんでした。白星発進で波にのりたい目算でしたが、カタールが昨年の選手と大きく陣容を変えて臨んできました。サウジアラビアの監督がチュニジア出身ということもあり色々と情報を提供してくれました。他国の監督も唖然としていましたが、ボスニア、シリア、チュニジア、アフリカ等から２m級の選手を数名ずつ帰化させ大会に出場させるという大きな落とし穴が待っていました。昨年のメンバーは３名しかおらず、昨年エースだった選手は大勝が決まってからコートに入るなど徹底して勝ちにこだわっていました。そのままカタールは他国を全く寄せ付けず優勝するわけですが、いきなり出鼻をくじかれました。

「日本人らしさで勝負」

初戦を落としたものの体力では十分に戦えるという自信を得て臨んだイラン戦、徹底したのは点を取られた後のクイックスタート、OF ではポジショニングと早いパス、DF では３－２－１からの素早いフォローとクロスアタック、私は戦略的にはこの試合が日本人らしく戦えた１番の試合だったと思っています。しかしながら結果は１点差で負け。「試合で勝って勝負で負ける」典型的な悪い日本チームらしさが出てしまいました。戦術通りノーマークチャンスを量産してもフィニッシュを失敗し、失敗し続けたまま試合終了。中東勢に２敗し世界選手権への道は厳しいものとなりました。イラク、レバノンにはきっちり勝ち、12 点差で勝利すれば準決勝に行ける韓国戦を迎えました。昨年の予選決勝で大敗している相手であり、また少ないキャンプ期間を「中東勢に全勝し世界へ」に重きを置いていたため、かなり厳しい状況下での戦略作りとなりました。昨年大敗した反省をもとに DF では６－０をベースに戦い、ある程度 BP 勝負に徹し、クロスの速攻を多用して試合に臨みました。一時６点差のビハインドを選手達の見事な集中力と精神力で引き分けまで持ち込むことができ、過去の経緯からしても価値があった戦いでした。韓国もスタート７人は技術的にもそれなりにはありますが、選手層の厚さや精神力での伸び率から言えば、この１年間は日本の方が上回っていたように感じます。最終戦でタイペイに勝ちトータル３勝１分２敗という結果で７位。国際試合は結果がすべてですので期待通りの結果を出せず、本当に申し訳なく思っております。

これからに向けて

「対中東勢と対韓国」

私は現在のジュニアやユースの年代の最重要課題は何としてもこの世代で世界を「体験」させるべくアジアを突破し、世界選手権に出場することだと考えています。対中東、対韓国と大きく分けて２つの戦い方があるアジアの状況下で日本チームらしく戦う方向性を確立することでこの世代からの体験が上につながる日が来るものと確信しております。この世代では中東勢と比べると日本は戦術的には明らかに優っています。体格は追いつきませんが体力で十分に戦えます。韓国はひたすら同じことをミスなく徹底してやってくる技術力があります。しかし以前と比べると精神的にも体力的にも落ちてきていると感じるのは私だけではないはずです。

「日本としてどうすべきか…」

他国がこの世代で最も重要視しているのが戦術ではなく技術です。トレーニング内容を見ていてもそれは顕著です。日本の選手は戦術理解度と「うまさ」を持っていますが、体格のある相手とのスタミナ勝負ではそのうまさや戦術が「強さ」に消されてしまいます。体力で勝とうと選手に言い聞かせているものの、実際のところ数回の合宿で鍛えられる体力とは「走力」であり「筋力」まで含んだ体力ではありません。体力とは継続して得られるものですが、高校生が所属チームで筋力トレーニングを十分しているとも言えません。しかしながらアジアを突破しないと世界に行けないわけですから、今ある環境でいかに結果を出せるようにするか「知恵」を結集させることができればと思います。

幸いにも味の素 NTC という素晴らしい強化環境があり、NTS というタレント発掘の場やアカデミーという将来性豊かなタレント育成の場もある中で、いかに合理的な方法で結果を出せるかが課題ではないでしょうか。

最後に

インターハイ直前にも関わらず、快く選手を出して下さった所属チームの先生方、大会前、体格のある相手と練習がしたいと申し出ると必ず NTC まで来て下さり、豊富な世界での体験を選手にアドバイスして下さった大崎電気・岩本監督や選手の皆様、大会直前には選手をたくさんサポートして下さった NTC 田中さん、市来さん、合宿中には必ず激励に来て下さり「体力＝気力＝人間力」と選手に語りかけていただいた市原副会長、多くのアドバイスを頂いた西窪強化本部長、松井男子強化部長、遠征の段取りをスムーズにして下さった日本協会事務局の原田さんや床尾さん、日本で暖かい声援を送って下さったハンドボールファンの皆様にこの場をおかりして心より御礼申し上げます。

この世代が進むべき方向性が見えてきた気がします。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



写真提供：スポーツイベント社

戦評　戦評　戦評　戦評　戦評

■7/4（日）予選リーグ1戦目

カタール　34（18－11、16－13）24　日本

予選リーグ初戦はカタール。カタールとは昨年のユースオリンピック予選で10点差以上で勝利をおさめているが、その時のチームとは大きく変え（主力の多くをロシア、シリア、クウェートから帰化)、1m90～2m級の選手を揃えていた。日本はその大型選手に対し高めの3－2－1DFでプレッシャーをかける。トップDFの玉城がアグレッシブにコンタクトにいくが1m95のポストプレイヤーを守れず失点が続く。日本も大型6－0DFの間から久保や元木のステップシュートで得点を重ね、15分7対7とする。が、ここからミスからの速攻での失点、堤の退場が重なり連続失点し前半を11対18で折り返す。

後半に入ってもポストプレイヤーを中心に攻撃するカタールに対し苦戦し、流れを掴めないまま15分が過ぎ、15対25と試合を決定づけられる。ここから、元木のロングシュート、平子の速攻、上野のカットイン等で応戦し、DFでもより積極的にインターセプトをねらい粘るが、それまでの差を縮めることができず、24対34で試合終了となった。

〈個人得点〉元木8，上野・久保・平子3，堤・内海2，鈴木・谷之木・東江1

■7/6（火）予選リーグ2戦目

イラン　34（16－20、18－13）33　日本

初戦敗戦のスタートとなった日本は、準決勝進出に向け絶対に落とせない2戦目。

日本は開始15秒、フォーメーションから久保のカットインで先制。その後も、東江のステップシュート、鈴木のスカイ、サイド、GK加藤の好セーブ等で流れをつかみ10分で6対2とする。イランも1m95のレフトバックを中心に1：1で日本DFに圧力をかける。警告3枚が早々に出されるが、その後は速いカバーリングでしのぎ、前半を20対16で折り返す。

後半に入ると日本の勢いは加速。東江のロング、堤のサイド、玉城のポスト・速攻、元木の7mスロー、久保のステップ、GK佐々木の7mスロー阻止等、一気に流れをつかみ10分27対20と突き放す。しかし、イランも体格をいかした執拗な1：1で日本の退場者を誘う。日本は退場者を出しながらも要所は締め、残り10分31対27と4点リードする。しかしここから、イランは開き直った思い切りのいいシュートを連発。逆に日本は勝負を決めるシュートをことごとくGKに阻止され、7分間で6連続失点、31対33とされる。その後、お互い1点ずつ追加し、久保が角度のないステップシュートをねじ込み1点差とする。残り30秒でイランのオフェンスをしのぎ、最後の速攻で同点のチャンスにかけるが得点することができず試合終了となった。

〈個人得点〉元木8，久保7，堤・鈴木・東江5，玉城3

■7/8（木）予選リーグ3戦目

日本　34（15－10、19－8）18　イラク

2連敗のスタートとなった日本の第3戦はイラク。これ以上負けられない日本は背水の陣で試合に臨んだ。

プレッシャーからか日本はかたい入り。5分で1対2と先行される。久保、谷之木の速攻で逆転するもなかなか流れにのれず、18分7対6。しかし、ここで流れを変えるために投入した平子、上野が1：1からのカットイン、ロングシュートと2人で6点を決める活躍で突き放し、前半を15対10で折り返す。

ハーフタイムで再度「やるべきこと」の徹底をはかった日

本は、後半早々、久保・杉本の７ｍスローで一気に流れをつかむ。センターバックに入った森田を中心に気を抜くことのないDF、そして加藤・村上の両GKのスーパーセーブで失点を最小限に。オフェンスでは、森田・杉本のサイドシュート、内海のロングシュートで加点し、34対18で予選リーグ初勝利を飾った。途中出場の上野、平子、内海の活躍、そして同じく途中出場のGK村上の一気に流れをよせる３連続セーブが初勝利へと導いた。
〈個人得点〉元木・久保・平子６，上野・谷之木・杉本３，堤・森田・内海２，鈴木１

■7/10（土）予選リーグ４戦目

日本　36（18－8、18－4）12　レバノン

予選リーグ１勝２敗でむかえた第４戦は、ここまで全敗のレバノン。

立ち上がり日本は３－２－１DFでレバノンバックプレーヤーに徹底してプレッシャーをかけるが、シュートを確実に決めることができず、10分５対５と苦しい展開となる。しかし、ここから鈴木サイド、東江カットイン、久保ロングを含む７連取で12対５（20分）としゲームの主導権をとる。その後も安定したDF、攻撃では森田、久保、元木のロングで加点し前半を18対８で折り返す。

準決勝進出の可能性を高めるため少しでも、点差を開きたい日本は後半立ち上がり一気にスパートをかける。東江、久保、元木、上野、杉本、平子の６連取で５分24対８。しかしここからシュートミスが続く。DFは継続して安定しGK加藤、途中出場の村上が好セーブをみせ失点を最小におさえるが、得点が伸びない状況が続き20分28対12。ここで流れをかえるためにタイムアウトをとる。ここから残り10分失点を０に、オフェンスでは、堤、内海の速攻、そして松本のポストで36対12で勝利をおさめた。
〈個人得点〉元木10，久保７，堤・東江４，上野・内海２，松本・鈴木・谷之木・森田・杉本・玉城・平子１

■7/12（月）予選リーグ５戦目

日本　30（12－15、18－15）30　韓国

予選リーグ最終戦。２勝２敗でむかえた日本の対戦相手は韓国。この試合で12点差で勝てば準決勝進出という僅かな可能性にかけ、日本はチーム一丸決死の覚悟で試合に臨んだ。これまでの試合はすべて３－２－１DFで臨んだが、この試合は６－０DFでカットイン、ポストプレイを徹底して守り、ロングシュートで勝負する戦術で臨む。その戦術が功を奏し、ロングシュートに村上が好セーブを連発する。が、日本もノーマークシュートを相手GKに阻まれ得点が伸びず、10分で４対４。その後、平子の１：１で相手退場を誘い、流れをつかみ、元木のカットイン、杉本、久保のミドル等で加点するが、要所でシュートミスからの速攻を押え切れず、前半を12対15で折り返す。

後半、なんとか追いつき追い越したい日本だが、イージーミスを確実に得点され６点差となった時点でタイムアウト。ここから日本は確認事項を徹底し、東江のロングシュート、久保のステップ・７ｍスロー等で粘るものの15分、20対26と苦しい展開が続く。が、日本はここから残り15分最大の集中力を発揮する。体を張ってルーズボールを取り、村上のスーパーセーブ、杉本のサイド、鈴木のポスト、東江のサイド等、そしてエース元木がフル代表の選手らしいインターセプトからの速攻を気迫でねじ込み、29分15秒30対30の同点に追いつく。そして最後のDFを全員で守り切り、同点で試合終了となった。

予選リーグ２勝２敗１分で終わり４位。７～８位決定戦でチャイニーズタイペイとの対戦となった。
〈個人得点〉久保７，元木６，鈴木・杉本・東江４，堤・平子２，森田１

■７－８位決定戦

日本　31（16－15、15－12）27　チャイニーズタイペイ

日本の最終戦は７－８位決定戦、対チャイニーズタイペイ。

開始早々日本は、森田のサイド、元木のロングシュート等で先制するが、タイペイのアグレッシブな３－３DFを攻めきれず、ミスからの速攻で失点が続き苦しい展開となる。10分５対４。20分12対10。タイムアウトをとり流れをかえ、平子、元木の連打で突き放すも、またミスが続き15対15と追いつかれる。なんとか元木が7mTをねじ込むが前半を16対15と思うような展開にならず折り返す。

ハーフタイムに残り30分の戦術を徹底し臨む日本。東江のポストで始まり、上野の１：１で7mTを誘い元木が確実に決める。これで流れにのり、平子と久保の連打で12分24対18と引き離す。しかし、タイペイもアグレッシブなDF、両バックプレーヤーの切れのあるロングシュートで20分24対23と１点差に迫られる。ここで、日本は後半から出場したGK加藤が好セーブを連発し危機を乗り越え、オフェンスでは上野のカットイン、そして27分試合を決定づけるシュートを内海がねじこみ、31対27でタイムアップとなった。中東、韓国とは異なるハンドボールをするタイペイに苦しんだが、チーム一丸となり60分間戦い、最終戦を勝利につなげた
〈個人得点〉元木９，久保８，平子４，森田３，上野・東江２，鈴木・内海・杉本１

平成22年度

第18回全日本マスターズ大会

平成22年度第18回全日本マスターズ豊田大会を終えて

第18回豊田大会 大会本部長　川島 克之

8月6日（金）第7回を迎えた11人制大会は昨年と同じ100名弱の参加申し込みがあり6チームに編成し組合せを作成しました。場所は豊田市体育協会五ヶ丘運動公園に移し開催しました。このグランドもオール芝コートであり、恵まれた環境でありました。試合の方は、昨年同様決勝は地元HC名古屋ATF（B）・中部ドリームズ対神楽坂フェニックスの対戦となり、雪辱に燃える神楽坂フェニックスが前半の点差を守り優勝しました。暑さの中ご苦労様でした。

8月7日（土）・8日（日）は7人制の大会となり交流型男子39チーム、女子は12チーム、順位決定型男子12チーム、女子6チーム計69チームの申込がありました。今年度は開会式・懇親会を8月7日（土）に実施する事になり、その日の試合は昨年1コート15試合を組んでいましたが今年は1コート11試合に押さえなければならず、昨年はコート6面で計画しましたが8面必要となり、岡崎ハンドボール協会にお願いし2面確保して頂き無事大会を実施することができました。選手の皆様には会場移動で大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。ゲームの合間に11：50～13：25の時間帯にスカイホール豊田において「ちびっ子&Over60が一緒にハンドボールを楽しもう」を実施、今年は豊田60歳以上の体力再生教室の皆様も参加され、好評でした。

また、愛知県ハンドボール協会が考案し、より多くの人に理解していただき広げていただくためにX-ballというゲームを披露させて頂きました。

開会式・懇親会には約400名以上の参加者があり10年出場3チーム、80歳以上参加選手表彰、新チーム参加3チーム紹介等の後、昨年上映できなかった昭和35年ルーマニア対全芝工大の11人制のビデオを上映しました。思い出を持っておられる方は勿論、初めて11人制を見られた方の眼も輝き、拍手が起こるほど場を盛り上げるものでした。今後もこのような記念になるようなものをお持ちの方がおられましたら借用したいものです。

試合の方は全チームが3試合を楽しむ事を原則としております。特に交流型参加の男女チームの皆様は充分楽しんでいただけたでしょうか。

順位決定型におきましては昨年地元AZZUROがオールドフェイスを破り優勝しましたが、今年はAZZUROが2回戦で敗退、オールドフェイスも準決勝で敗退、決勝はGG' S（京都）対下松クラブアダルツ（山口）となり、試合は接戦となったが最後に下松クラブアダルツが勝利を収めました。閉会式があり残っている大会参加者で記念写真を撮り、来年もこの大会で会えることを楽しみにして散会しました。

今年は最も残念であったのが順位決定型男子で初出場の境港クラブが棄権したことです。それも全日本マスターズの11人制が開始される直前に電話での辞退でした。日本ハンドボール協会主催であり、実行委員会が長い時間をかけ計画し、事前に大会についての連絡の "お知らせ" を3回に渡り発送し、大会の内容は充分に理解していただけるものと思っていました。我々実行委員会も大会が始まれば1選手として大会を楽しむことになっていましたが、そう思った矢先の辞退の電話です。大会趣旨を説明しても理解していただけずチームで決めてしまったことだからの一点張りでした。今まで積み上げてきた多くのハンドボール愛好者を傷つけ、楽し

みを奪ってしまうことになってしまいました。一人でも大会に足を運んで大会の状況を見て欲しかったとの思いが実行委員会の一致した意見です。

補助役員を代表して宗隆志さんに大会参加の感想をまとめて頂きました。

大会ボランティアに参加して

豊田市在住 ボランティア　宗　隆志

60歳以上の体力再生教室でお世話になっている小山先生より、全日本マスターズハンドボール豊田大会のボランティアの呼び掛けがありました。ハンドボールの経験がなくてもやれる簡単な内容だよ。得点などの記録や時間の管理だよ。これに手を挙げたのは14名でした。実際にやってみると簡単だよなんてとんでもない。ゲームの展開が早く、少しも目が離せない。間違ってはいけないと緊張の連続でした。何とかついていける様になると、ハンドボールって思っていたより面白いんだ。スピードはあるし、スリリングでやっている人は楽しそうだし。ハンドボールにはまっている姿は羨ましくも感じました。記録を付けながらもいつの間にかゲームに引き込まれている自分たちが居ました。緊張の連続で疲れましたが、終わってみると心地よい疲れでした。貴重な体験で参加して良かった。またこのような機会があればやりたいというのが皆の思いでした。

この大会も今年連続で豊田市で開催し試行錯誤を繰り返しながら改革を行って参りました。来年は大阪で開催する予定です。大阪らしい試みを目指します。マスターズ愛好者の多くのご意見をお待ちしています。









右2点共　写真提供：スポーツイベント社

～ケガ対策は急務～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー Free Throw

酷暑の中で行われたインターハイや全国中学校大会、社会人各種大会に続いて日本リーグが開幕。学生の各地域リーグも行われている。

日本リーグは前回リーグと同じ顔ぶれながら、変則日程での争いとなる。国体や全日本総合選手権が組み込まれるのは例年通りだが、その間に中国でのアジア大会、アジア女子選手権、男子世界選手権とビッグゲームが目白押し。中でも女子は11月から来年２月初旬まで約３カ月間もブレイク期間がある。

その間の調整具合、あるいは強化が勝敗に大きな影響を与えそうだが、何よりも怖いのは故障である。

何もハンドボールに限ったことではないが、最近のスポーツ界を見渡せば、私の気のせいかも知れないが、以前と比較して故障者が多いという印象がある。正確なデータは持ち合わせていないが、周囲の人たちにも、そういった感じを持たれている声をよく耳にするから、まんざら私の思い過ごしでもないのだろう。

ある日本代表監督と話し合う機会を持った時に、その辺りを尋ねたことがある。

その監督は－。

確かに現在のプレーヤーはケガが多いのは事実だ。以前と比べて競技のスピード化、当たりの強さ、ハードスケジュールなど要因は広範囲に及ぶ。でも、それらをクリアしてこそ世界に通用する、あるいはチャレンジすることが出来る。個人競技であっても、団体競技であろうと、そこは変わらない。いかにケガを少なくするかは、世界に羽ばたこうとすれば当然必要なことだ。

ただ、そのために日ごろから身体のリカバリーはもちろん、鍛えることを忘れてはいけない。代表合宿では強化を目的にトレーニングを積むことが当然だが、今は加えて身体的トレーニングを加えないといけない状況でもある。きびしい練習に耐える身体的なトレーニングをもっとそれぞれが所属するチームで日常的に行うことが重要なのではないか。

－日ごろの取り組む姿勢をもっときびしく、ということだろうと納得したものだ。

身体的に成長期にある小・中学生年代に科学的な基礎的トレーニングを採り入れることが必要だろうし、高校生年代にはプラス強化トレーニングを加味することではないだろうか。

ケガとの戦いで、せっかくの競技人生を無駄にしたくはない。自分の選んだ競技で思いきりプレーしたいのは当然。指導者、特に成長期にある子どもたちの指導に当たっては、気をつけるべきではなかろうか。ロンドン五輪予選は一歩一歩近づいていく。悲願達成には、まず鍛えた身体で挑戦することを忘れてはなるまい。

JADMA®
社団法人日本通信販売協会会員



6カ月間洗浄がいらない PREMIUM ドクター・水素水®

多くのアスリートや
スポーツ愛好家の
方々にも愛飲されて
います。



健康は毎日の飲料水から

**水道水から作れるので
1日わずか 25 円と
とても経済的です。**

水素(H2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。



※日本国特許第4252434号
※アメリカ合衆国特許番号:USP 7,189,330
※中国特許登録：ZL 2005 1 0068852.5
※韓国特許登録:529006号
※国際特許申請中

6ヶ月間
1ヶ月に一度の穀物酢洗浄なし

従来品より原材料が 1.5倍

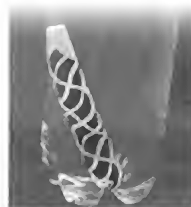
水素量が 30%up

	溶存水素濃度 (ppm)	
経過日数	プレミアムスティック	従来スティック
1日	1.43	1.04
1カ月	0.76	0.71
2カ月	0.79	0.62
3カ月	0.82	0.56
4カ月	0.86	0.42
5カ月	0.88	0.29
6カ月	0.80	0.23

試験条件：
1本／500ml PET ボトル
溶存水素濃度計測後
毎日全量水交換

計測機器：
エイブル株式会社製
溶存水素濃度計　DHS-001

ドクター・水素水 PREMIUM





ドクター・水素水 PREMIUM
1箱3本入り
メーカー希望小売価格
6ヶ月タイプ　13,440 円(税込み)

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル

0120-372-132（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
www.aboutsuisosui.com

第2回チャレンジ・ディビジョン大会要項

日本ハンドボールリーグ機構

厳しい経済環境下、企業スポーツチームが休廃部に追い込まれる状況を打ち破り、より多くの社会人ハンドボーラーに活動の機会を提供するために、昨年度設立致しました本リーグを下記要領にて開催致します。

なお、昨年同様、日本リーグとは別の位置付けで、日本リーグチームとの入れ替え戦等はありません。

大 会 名：第2回チャレンジ・ディビジョン

主　　催：日本ハンドボールリーグ機構

主　　管：チャレンジ・ディビジョン運営委員会

開催期間：平成22年9月18日（土）～平成23年1月29日（土）
順位決定戦　平成23年2月5日（土）～6日（日）

参加資格：①日本協会「一般Ａ」登録された企業チームおよびクラブチーム
②各都道府県協会で国体用に組織されたチーム
③日本協会「大学」登録し各学連1部リーグの大学チーム

試合形式：＜男子＞
東地区・西地区各5チームによる1回戦総当りのリーグ戦
及び最終順位決定戦
＜女子＞
11月に開催予定の日本リーグ女子強化キャンプへの参加

参加チーム：＜男子＞
東地区＝トヨタ自動車、ＨＣ春日井、大同大学、中部大学（以上、愛知県）
ＨＣ岐阜（岐阜県）
西地区＝Honda（三重県）、ＨＣ･ＭＫＡ（奈良県）、八光自動車（大阪府）
ＨＣ山口、徳山クラブ（山口県）
＜女子＞
最終調整中

競技規則：平成22年度（財）日本ハンドボール協会競技規則に準ずる

開催日程及び組合せ：最終調整中

平成22年度 第13回ハンドボール研究集会報告

学校体育ハンドボール検討専門委員会 委員　丸井 一誠

1．期間　平成22年8月4日（水）、5日（木）
2．主催　（財）日本ハンドボール協会
3．主管　長野県ハンドボール協会
4．後援　文部科学省　長野県教育委員会　佐久市教育委員会
5．会場　長野県佐久市立中佐都小学校
6．実施内容

【8月4日（水）】

開会式　12：30 － 12：50

講　義　12：50 － 13：50
講師　文部科学省教科調査官　佐藤　豊
『新しい体育の学習評価の動向』
●体育で何を教えるの？体育の価値って何？
●学力の要素
●体育の分野と評価の観点
●観点の趣旨
●体育分野の指導内容の体系化
●球技（ゴール型）の系統性と発展性

研究発表　14：00 － 15：10
座長：佐藤勝弘・佐藤靖
①信原悦治（岡山市立馬屋下小学校）
『HAZENA ―子どもの動きを引き出すゴール型教材―』
②清水由（筑波大学付属小学校）
『体育授業におけるハンドボールの教材価値に関する検討―特に小学校中学年児ゲームパフォーマンス及び授業評価の分析を通じて―』
③小野浩由（新潟県十日町市立東小学校）
『低学年がハンドボールを楽しむために必要な基礎感覚と指導の工夫―コーディネーショントレーニングを取り入れた実践―』
④大日方政之（長野県小諸市立坂の上小学校）
『キャッチバトル― ［捕る］［投げる］に注目して―』
⑤米村耕平（香川大学教育学部）、宮崎彰（香川大学教育学部附属坂出小学校）、横手健太（高松大学）
『ゴール型ゲームの発展段階に対応したハンドボールの授業実践』
⑥本間智英（新潟県佐渡市立両津小学校）
『ゴール型ゲームにおいて攻め方を工夫する子どもの育成を目指して』

実技研修　15：30 － 17：00
講師　信州大学教育学部　准教授　渡辺　敏明
『ボール運動につながる楽しい運動遊び』
●集団じゃんけん
●二人組みでさまざまなゲーム
●ゴミゴミボールの作成
●グー・チョキ・パー投げ
●ゴミゴミボールを使って、「なげる・とる」「ける・とる」「ぶつける」
●小さなごみボールを片手で「キャッチ・うつ」
●トコロテン鬼
●宝とりゲーム

交流会　18：00 － 20：00

【8月5日（木）】

授業提案　09：00 － 11：00
授業者：小岩井浩明（佐久市立中佐都小学校）
『ザ・シューター』（3年）
授業者：関　園子（佐久市立中佐都小学校）
『ハンドボール―かわしてシュート―』（5年）

講義　11：15 － 12：15
講師　筑波大学　名誉教授　大西　武三
『ウォーミングアップで学ぶ基礎的技術』
●「よく学び、よく遊び、よく考えよ」
●指導の原理原則の共有
●ハンドボールの本質・特性を失わずに教える
●良い環境で、一流の動きから学ぶ
●ゲームに役立つ動きづくり
●ゲームが上手になるためのウォーミングアップ

閉会式　12：15 － 12：30

7．まとめ

本研究集会は「ゴール型教材としてのハンドボール―その3―」のテーマ下に行われました。参加者一同、改めて「ゴール型」のなかのハンドボール教材の価値を再確認できる集会であったと感じました。このようにハンドボールの教材的な可能性・魅力を感じとることができたのは、まずもって講義・研究発表・実技研修・授業実践をしていただいた先生方のおかげであり、大変感謝申し上げます。

このハンドボール教材が、多くの先生方に「よい教材」として認識され、どの先生でも指導できる教材として成長することが今後の課題であり、ますます発展するよう委員一同取り組んでいきますので、皆様のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、本研究集会を開催するにあたり、猛暑のなか、ご尽力いただいた実行委員会および運営委員会のみなさま、そして関係者の方々に感謝を申し上げつつ、ご報告とさせていただきます。

平成22年度　第13回ハンドボール研究集会役員

【長野県実行委員会】
会長：青木崇
副会長：春原紘一、加藤雅之
委員長：竹内佳明

【運営役員会】
委員長：竹内佳明
副委員長：青木和彦
委　員：小岩井浩明、永井和一、岩井和成
補助委員：中佐都小学校職員、長野県ハンドボール協会

【（財）日本ハンドボール協会　学校体育ハンドボール検討専門委員会】
委員長：佐藤靖
委　員：大西武三、角紘昭、佐藤勝弘、南木雅弘、小山浩、山本繁、杉森弘幸、小林和子、村山明夫、丸井一誠、高橋善春

全国大会を吹笛して（レフェリー集団として過ごした７日間）

亀山 耕司（北海道札幌西高等学校）、**今野 秀樹**（北海道札幌市立啓北商業高等学校）

「平成22年度全国高等学校総合体育大会 『美ら島 沖縄総体2010』」がハンドボール都市宣言をした沖縄県浦添市を中心に、７月31日から８月６日まで開催されました。

私たちは、ペアとしては全国大会初参加となりました。

どの試合、どの大会も厳しい練習を積んだトレーニングの披露の場であることは間違いありませんが、特に夏、インターハイにかけるチームの意気込みは別の熱気があるように思います。これまで何度か審判員として参加している私は、このチームの思いを常に感じていました。

審判研修会において幾度となく、細澤全国高体連審判長はおっしゃっています。

「われわれ審判員には反省・研鑽をして次があるのかもしれないが、選手にとっては一生で一度きりの舞台である。選手以上の準備をして臨まなくてはならない」

非常に印象に残る言葉であり、常にこのことを心にとめて大会に臨んでおります。

今大会も、ペアの今野と出来得る最大限の準備をして大会へ臨んだつもりです。

全国各ブロックから推薦されたレフェリー集団の意識の高さは勿論のことですが、大会初日の審判研修会ではルール改正の確認・事例研究・ルール問題テストを行い、選手の熱意に負けない準備がされていることを再確認しました。

毎日、早朝からのミーティングにはじまり、担当ゲーム後の反省、担当コートレフェリー間での反省研修、一日の最後には全審判員・競技担当者での審判反省会は大変実り多いものとなりました。時に反省会の終了が夜21時をまわることも珍しくはありません（当然夕食はこの後となります）。

反省会の内容は、地元沖縄のオフィシャルとの連携や会場ごとの改善点、そして実際にあった事例での判定は妥当だったかどうか、細部にわたるまで徹底した確認がなされます。

これらは全て、選手にとって最高の舞台を全力でサポートしようという審判部・競技部の思いの表れだと思っております。我々も毎日毎日が研修の場でした。

特にハンドボールを心から愛し、理解し、ルールにも精通している沖縄の観衆の皆さんにも解り易い大きなゼスチャーと一貫した判定基準を通すことが大きな課題でした。

われわれペアは「チームの特徴を如何に引き出すか」このことの重要性と難しさを痛感しました。

トップレフェリーの方々のレフェリングを拝見し感じたことは、『スムーズで早い！』ということです。事象・吹笛・判定までが一連の動作で選手やベンチにすぐわかるのです。

事象が見えないことが絶対にないように立ち位置を常に研究すること、解り易いゼスチャーや笛の強弱や長短で音色を変えること、表情・動作、場合によっては口頭で常に選手にインフォメーションを与えていること。大変勉強になりました。

今回の貴重な経験を生かして、北海道内の審判員・選手の指導に役立てたいと思います。何よりも自分たちが、まず、「選手の力を最大限に引き出すには？」をテーマにより一層研鑽していきたいと強く思いました。

最後になりますが、こうした大会へと参加できる機会をつくってくれた関係者の皆様、熱心に指導をしてくださった細澤審判長、越田審判審査指導委員長、審判団の皆さん、地元沖縄県の大会関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。



平成22年度沖縄インターハイに審判員として参加して

黒島 直人（沖縄県立泊高等学校）、金城 勇人（八重山観光フェリー株式会社）

「青天届く君の風 みなぎる闘志が夏に輝く」をスローガンとした全国高校総体、美ら島沖縄総体2010ハンドボール競技が7月31日の開会式を皮切りに、8月1日～6日にかけて沖縄県の浦添市・八重瀬町を舞台に開催されました。その大会に審判員として参加できたことは無上の喜びであり、種々の大会に可能な限り参加してレフェリング技術の向上を図り、今大会に臨んだ私たちだっただけに感慨も一入でした。

初日の審判研修会・会議では、24ペアで構成される今大会審判団の判定基準の統一を目的として競技規則の適用方法が確認され、あわせて競技規則試験も実施されました。ペア間の役割分担、正当な防御プレーの評価、段階的罰則の適用、シミュレーションプレーへの対応、ベンチ管理などを骨子とする審判団の認識共有が図られました。競技委員会からはマルチボールシステム（交換用ボールを3個以上準備する）導入と松ヤニ使用可の説明がありました。

いよいよ開幕日、私たちは、そのオープニング試合と5試合目を担当しました。地元沖縄開催なので緊張していないつもりでしたが、3歩3秒を保障しない早めの吹笛、3mの距離を確保しない笛、攻撃側の違反を防御側の違反としてフリースローの判定をする等、無難なレフェリングとの指摘に反省しきりでした。

2日目は多目的屋内運動場での笛。男子2回戦屈指の好カードに会場は大入りとなりました。暑さに加えボールに砂がつく悪条件の会場で、スタッフはその克服に向けて懸命に対応していました。その中でのレフェリング。スピードに負けずに、開始10分間で基準を示し、荒れない試合展開を目指しました。頻繁に行われるボール交換要求で試合の流れが細切れに寸断された上に判定の差し違いも出るなど、改善点多々のレフェリングとなりました。特にチーム役員のアピールに対して、毅然とした態度でイエローカードを出すべきだったとの指摘を受け、気も萎えてしまいましたが、この反省を次の笛に活かそうと気持ちを切り替えました。

「大会期間中は研修会である」との言葉が浮かぶ程、審判員の皆さんは技術向上に一途でした。朝6時のミーティング、担当試合の笛、1日の反省会という過密日程のなかに学ぶ意欲が満ち溢れていたからです。次の試合・明日の試合に備え、他のレフェリーが吹く試合の見学、審判技術に対する情報交換、そして体調管理と、選手・監督に負けず劣らず気が張っていました。

3、4日目は、意識的に私たちの担当した試合を観戦してもらい、可能な限りの指導・助言をいただき、次の試合のレフェリングの改善に即対応するように努めました。同じ失敗をしない、言葉による説明も大切、チームカラーを引き出すレフェリングを心掛ける、一連の流れを観てジャッジする、アクションとリアクションのレフェリングを意識する、判定の引き出しを多く持つ、等が新たな学びとして獲得したものです。

5日目、女子準決勝戦のコートに私たちが笛を持って立つことになりました。とても名誉なことでした。決して満足のいくレフェリングではありませんでしたが、今大会で学んだことを含めて全てを出し切ったという成就感のある試合となりました。



この様な大きなチャンスを与え御指導くださった日本協会をはじめ、全国高体連審判部、九州、沖縄県協会などの方々に衷心より感謝申し上げます。今大会の反省を活かし、今後ともレフェリング技術の向上に精進したいと考えています。

スコアルーム①

第23回全国小学生ハンドボール大会

開催期日：2010年7月31日（金）～8月1日（土）
会　場：京都府・京田辺市中央体育館ほか

【男　子】

■ 予選Aブロック

下郡スポーツ少年団	18（8－3、10－7）10	IDBスポーツクラブ
下郡スポーツ少年団	16（10－3、6－4）7	安堵の里クラブ
IDBスポーツクラブ	23（12－6、11－3）9	安堵の里クラブ

【順位】①下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②IDBスポーツクラブ（山口県）③安堵の里ハンドボールクラブ（奈良県）

■ 予選Bブロック

笹川クラブ	8（2－1、6－6）7	玉名町小学校
富岡イーグルス	25（13－5、12－9）14	かやげクラブ
かやげクラブ	19（10－10、9－4）14	玉名町小学校
富岡イーグルス	17（11－6、6－9）15	笹川クラブ

【順位】①富岡イーグルス（群馬県）②笹川ハンドボールクラブ（三重県）③かやげハンドボールクラブ（北海道）④玉名町小学校（熊本県）

■ 予選Cブロック

港川小学校	16（4－4、12－1）5	安芸高田クラブ
神戸ラスカルズ	13（5－4、8－3）7	能美ジュニア
安芸高田クラブ	28（14－2、14－6）8	能美ジュニア
港川小学校	22（7－6、15－4）10	神戸ラスカルズ

【順位】①港川小学校ハンドボール部（沖縄県）②神戸ラスカルズ（兵庫県）③安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）④能美ジュニアハンドボールクラブ（石川県）

■ 予選Dブロック

桃園小学校	21（15－0、6－7）7	日吉台ファルコン
高山クラブ	13（6－3、7－9）12	塩江スポーツ少年団
日吉台ファルコン	9（4－2、5－3）5	塩江スポーツ少年団
桃園小学校	21（9－3、12－4）7	高山クラブ

【順位】①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）②高山ミニハンドボールクラブ（岐阜県）③日吉台ファルコン（千葉県）④塩江ハンドボールスポーツ少年団（香川県）

■ 予選Eブロック

窪スポーツ少年団	19（8－3、11－5）8	坂戸クラブ
姶良スポーツクラブ	16（7－9、9－6）15	平針南クラブ
平針南クラブ	14（9－3、5－3）6	坂戸クラブ
窪スポーツ少年団	22（11－5、11－7）12	姶良スポーツクラブ

【順位】①窪スポーツ少年団ハンドボール部（富山県）②姶良スポーツクラブハンドボール（鹿児島県）③平針南ハンドボールクラブ（愛知県）④坂戸ハンドボールクラブ（埼玉県）

■ 予選Fブロック

東久留米クラブ	16（5－5、11－6）11	貝塚バーディーズ
LHC静岡	16（7－2、9－2）4	愛媛ジュニアーズ
貝塚バーディーズ	19（12－3、7－4）7	愛媛ジュニアーズ
東久留米クラブ	11（6－3、5－5）8	LHC静岡

【順位】①東久留米ハンドボールクラブ（東京都）②LHC静岡ハンドボールスクール（静岡県）③貝塚バーディーズ（大阪府）④愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

■ 予選Gブロック

松井ヶ丘クラブ	14（8－7、6－5）12	とびうめキッズ
守谷クラブ	12（4－5、8－6）11	総社クラブ
総社クラブ	24（10－5、14－4）9	とびうめキッズ
守谷クラブ	22（12－2、10－5）7	松井ヶ丘クラブ

【順位】①スポーツ少年団守谷クラブ（茨城県）②松井ヶ丘ハンドボールクラブ（開催地）③総社クラブジュニア（岡山県）④とびうめキッズ（福岡県）

■ 予選Hブロック

木田ブルーロケッツ	23（12－5、11－5）10	塩山スポーツ少年団
木田ブルーロケッツ	23（14－2、9－7）9	和歌山ハンドボール教室
塩山スポーツ少年団	22（11－6、11－5）11	和歌山ハンドボール教室

【順位】①木田ブルーロケッツ2000（福井県）②塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）③和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

■ 決勝トーナメント1回戦

下郡スポーツ少年団	17（6－3、11－8）11	富岡イーグルス
港川小学校	19（9－10、10－7）17	桃園小学校
窪スポーツ少年団	16（9－1、7－4）5	東久留米クラブ
守谷クラブ	18（7－7、11－5）12	木田ブルーロケッツ

■ 準決勝

下郡スポーツ少年団	16（8－4、8－9）13	港川小学校
守谷クラブ	12（7－1、5－6）7	窪スポーツ少年団

■ 3位決定戦

港川小学校	16（9－5、7－8）13	窪スポーツ少年団

■ 決勝戦

守谷クラブ	17（7－9、10－7）16	下郡スポーツ少年団

【女　子】

■ 予選aブロック

仏生寺スポーツ少年団	20（10－2、10－3）5	山梨市スポーツ少年団
山梨市スポーツ少年団	19（9－7、10－7）14	川西コジマーズ
仏生寺スポーツ少年団	28（12－5、16－4）9	川西コジマーズ

【順位】①仏生寺スポーツ少年団（富山県）②川西コジマーズ（兵庫県）③山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

■ 予選bブロック

日岡スポーツ少年団	25（14－9、11－12）21	総社クラブ
日吉台バード	10（3－4、7－1）5	能美ジュニア
総社クラブ	13（8－4、5－6）10	能美ジュニア
日岡スポーツ少年団	18（8－6、10－5）11	日吉台バード

【順位】①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②日吉台バード（千葉県）③総社クラブジュニア（岡山県）④能美ジュニアハンドボールクラブ（石川県）

■ 予選cブロック

東久留米クラブ	11（5－3、6－5）8	潮クラブ
笹川クラブ	23（12－4、11－1）5	安芸高田クラブ
潮クラブ	22（11－3、11－2）5	安芸高田クラブ
東久留米クラブ	12（6－2、6－8）10	笹川クラブ

【順位】①東久留米ハンドボールクラブ（東京都）②笹川ハンドボールクラブ（三重県）③潮ハンドボールクラブ（北海道）④安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）

■ 予選dブロック

松井ヶ丘小学校	20（13－2、7－5）7	愛媛ジュニアーズ
高山クラブ	12（5－2、7－1）3	富岡ラビッツ
富岡ラビッツ	9（5－4、4－2）6	愛媛ジュニアーズ
高山クラブ	9（6－4、3－3）7	松井ヶ丘小学校

【順位】①高山ミニハンドボールクラブ（岐阜県）②松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）③富岡ラビッツ（群馬県）④愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

■ 予選eブロック

桃園小学校	26（15－2、11－0）2	三郷クラブ
IDBスポーツクラブ	22（10－1、12－4）5	三郷クラブ
桃園小学校	19（9－4、10－7）11	IDBスポーツクラブ

【順位】①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）②IDBスポーツクラブ（山口県）③三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）

■ 予選fブロック

東海スクール	20（10－2、10－5）7	木田ブルーロケッツ
宇土小学校	24（13－2、11－0）2	和歌山ハンドボール教室
木田ブルーロケッツ	24（13－1、11－1）2	和歌山ハンドボール教室
東海スクール	22（13－5、9－11）16	宇土小学校

【順位】①東海ハンドボールスクール（愛知県）②宇土小学校（熊本県）③木田ブルーロケッツ2000（福井県）④和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

■ 予選gブロック

LHC静岡	10（7－1、3－3）4	岸和田フレンズ
土浦クラブ	13（6－4、7－7）11	小島小学校
岸和田フレンズ	10（4－2、6－7）9	小島小学校
LHC静岡	8（5－2、3－3）5	土浦クラブ

【順位】①LHC静岡ハンドボールスクール（静岡県）②土浦ハンドボールクラブ（茨城県）③岸和田フレンズ（大阪府）④小島小学校ハンドボールクラブ（長崎県）

■ 予選hブロック

香川町スポーツ少年団	13（9－1、4－1）2	真弓クラブ
浦城ハンドボール部	23（12－0、11－2）2	真弓クラブ
浦城ハンドボール部	24（14－1、10－3）4	香川町スポーツ少年団

【順位】①浦城ハンドボール部（沖縄県）②香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川県）③真弓クラブ（奈良県）

■ 決勝トーナメント1回戦

仏生寺スポーツ少年団	20（8－9、12－5）14	日岡スポーツ少年団
東久留米クラブ	14（7－7、7－5）12	高山クラブ
東海スクール	22（9－10、13－6）16	桃園小学校
浦城ハンドボール部	19（8－4、11－2）6	LHC静岡

■ 準決勝

仏生寺スポーツ少年団	15（8－1、7－4）5	東久留米クラブ
東海スクール	13（7－6、6－6）12	浦城ハンドボール部

■ 3位決定戦

浦城ハンドボール部	12（6－7、6－1）8	東久留米クラブ

■ 決勝戦

東海スクール	15（8－5、7－6）11	仏生寺スポーツ少年団

スコアルーム②

第18回全日本マスターズ大会

開催期日：2010年8月6日（金）～8日（日）

会　場：愛知県・豊田市総合体育館ほか

【男子交流型】

■ あブロック

生駒オークス	17-8	市工芸クラブ
生駒オークス	16-7	東山クラブ
中京オールスターズ	18-7	生駒オークス
中京オールスターズ	22-4	岐阜MHC（A）
中京オールスターズ	16-6	天王寺高校A
東山クラブ	13-11	岐阜MHC（A）
東山クラブ	14-10	天王寺高校A
天王寺高校A	12-7	市工芸クラブ
岐阜MHC（A）	11-7	市工芸クラブ

■ いブロック

海自桜錨会B	13-9	HC名古屋ATF（A）
HC名古屋ATF（B）	15-14	海自桜錨会B
海自桜錨会B	18-8	LBGアルバトロス
秋桜柏	7-6	HC名古屋ATF（A）
HC名古屋ATF（B）	11-8	秋桜柏
秋桜柏	14-5	LBGアルバトロス
HC名古屋ATF（B）	10-10	福岡クラブ
福岡クラブ	13-10	HC名古屋ATF（A）
福岡クラブ	15-12	LBGアルバトロス

■ うブロック

葵クラブ	13-10	SINCE2008
葵クラブ	14-13	三景
東京都社会人連盟	9-15	葵クラブ
静岡マスターズ	17-6	SINCE2008
三景	14-11	静岡マスターズ
静岡マスターズ	14-10	東京都社会人連盟
鉄球会	21-5	SINCE2008
鉄球会	14-7	三景
鉄球会	18-11	東京都社会人連盟

■ えブロック

愛豊Z	12-6	山口選抜
愛豊Z	6-4	北陸OBマスターズ
海自桜錨会A	12-9	愛豊Z
豊橋マスターズ	18-9	山口選抜
北陸OBマスターズ	15-6	豊橋マスターズ
小金クラブ	17-6	山口選抜抜
小金クラブ	18-12	北陸OBマスターズ
小金クラブ	14-11	海自桜錨会A
海自桜錨会A	16-8	豊橋マスターズ

■ おブロック

オールド愛媛	13-12	オークスクラブ
オークスクラブ	12-8	岐阜MHC（B）
オークスクラブ	13-10	安威川クラブ
天王寺高校B	12-10	オールド愛媛
天王寺高校B	10-3	岐阜MHC（B）
兵庫選抜	18-8	オールド愛媛
兵庫選抜	19-8	岐阜MHC（B）
兵庫選抜	18-10	安威川クラブ
安威川クラブ	13-8	天王寺高校B

■ かブロック

知多クラブ	20-11	横浜平沼マスターズ
知多クラブ	14-13	46G会
松門会	19-6	神楽坂シニア
松門会	12-8	拝島ブルーウッド
川崎マスターズ	13-8	神楽坂シニア
川崎マスターズ	10-10	横浜平沼マスターズ
横浜平沼マスターズ	11-8	知多クラブ
横浜平沼マスターズ	12-10	46G会
拝島ブルーウッド	14-5	横浜平沼マスターズ
Tab Club	21-7	神楽坂シニア
Tab Club	23-3	拝島ブルーウッド
Tab Club	25-9	愛知コモンズ
46G会	18-15	愛知コモンズ

【女子交流型】

■ きブロック

HC名古屋・中部ドーリムスA	12-10	モッピークラブ
HC名古屋・中部ドーリムスA	8-6	F・J・C
モッピークラブ	10-7	チーム荒川
チーム荒川	7-5	F・J・C
スマイルGIFU	12-11	HC名古屋・中部ドーリムスA
スマイルGIFU	7-5	チーム荒川
HC名古屋・中部ドーリムスB	9-6	モッピークラブ
HC名古屋・中部ドーリムスB	20-8	スマイルGIFU
HC名古屋・中部ドーリムスB	14-4	F・J・C

■ くブロック

武蔵野クラブ	7-6	あゆみクラブ
武蔵野クラブ	13-6	ムラッキーズ
フェニーチェ	15-13	武蔵野クラブ
フェニーチェ	16-10	BABAR'S
BABAR'S	19-7	ムラッキーズ
瀬戸内レディース	13-9	フェニーチェ
瀬戸内レディース	8-5	BABAR'S
瀬戸内レディース	14-8	ムラッキーズ

【男子順位型】

▼ 1回戦

待兼シニア	12-0	境港クラブ
埼玉フェニックス	16-10	IDBスポーツクラブ
蒲郡クラブ	22-19	神楽坂フェニックス
HC群馬サファリ	15-8	徳山クラブマスターズ

▼ 2回戦

待兼シニア	17-15	AZZURRO
GG'S	15-10	埼玉フェニックス
下松クラブアダルツ	25-12	蒲郡クラブ
オールドフェイス	16-6	HC群馬サファリ

▼ 準決勝

GG'S	15-11	待兼シニア
下松クラブアダルツ	23 14	オールドフェイス

▼ 3位決定戦

オールドフェイス	11-9	待兼シニア

▼ 決勝戦

下松クラブアダルツ	11-8	GG'S

【女子順位型】

▼ 予選リーグうさぎ

富山エンジェルス	13-13	MMCM
	（＊コイントス）	
富山エンジェルス	10-8	徳山クラブ
MMCM	14-10	徳山クラブ

▼ 予選リーグねこ

スズッキーズ	8-2	風見鶏ファミリー
小松クラブ女子	13-8	風見鶏ファミリー
小松クラブ女子	12-10	スズッキーズ

▼ 5－6位決定戦

風見鶏ファミリー	16-7	徳山クラブ

▼ 3－4位決定戦

MMCM	11-5	スズッキーズ

▼ 1－2位決定戦

小松クラブ女子	11-10	富山エンジェルス

【11人制】

▼ 1回戦

HC名古屋ATF（A）	8-6	LBCアルバトロス・秋桜柏
横浜平沼マスターズ・葵クラブ	10-7	東京社会人連盟・BABAR'S

▼ 準決勝

HC名古屋ATF（B）	10-4	HC名古屋ATF（A）
神楽坂フェニックス	9-4	横浜平沼マスターズ・葵クラブ

▼ 3位決定戦

HC名古屋ATF（A）	8-6	横浜平沼マスターズ・葵クラブ

▼ 決勝戦

神楽坂フェニックス	11-7	HC名古屋ATF（B）

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【宮　城】大河原　浩気　【福　島】影山　有理　【茨　城】菊田　政行　【埼　玉】寺尾　嗣子、松本　隆栄、大塚　治恵、岡部　克則、西山　逸成　【千　葉】金牧　稔、鈴木　秀義　【東　京】張江　真代、鈴木　明美、佐藤　佳子　【神奈川】新井　益枝　【山　梨】天野　盛夫、栗原　富貴子　【愛　知】星野　真由美、笹野　邦雄、山下　悟史　【岐　阜】中島　明美　【大　阪】望月　滋乃、舟崎　智芳、久保　幸子、白鳥　貴子、亀石　正人　【兵　庫】新坂　智子、柿木　國夫　【岡　山】小林　恭大　【広　島】両徳　良樹

【10月の行事予定】

【会　議】

10月 9 日(土)

常務理事会（東京）

HANDBALL CONTENTS Oct.

（登録チームの購読料は登録料に含む）



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第五一三号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成二十二年九月二十六日印刷
平成二十二年十月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇一九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円